

サントリー食品インターナショナル株式会社 「若者の心と体の健康に関する実態調査」結果

調査対象	健康課題がある18～34歳の男女
調査方法	インターネット調査
有効回答数	男性423人、女性441人(計864人)
調査時期	2024年5月31日～6月3日

会社を休むほどではないが、心身の不調により、十分なパフォーマンスを発揮できず、仕事の効率や生産性が落ちている状態を「プレゼンティーイズム」という。今回は健康課題がある若者を対象にした調査から、プレゼンティーイズムの実態についてみてみたい。

職場の人間関係において影響を与えている不調がある
..... **65.0%**

何らかの悩みがあると回答した若年層のうち、有職者を対象に職場の人間関係において影響(支障)を与えている不調の有無について尋ねたところ、およそ3人に2人にあたる65.0%が、「不調がある」と回答している。男女別では、男性が67.8%、女性が63.7%となっており、男性のほうが不調を自覚している割合が高くなっている。

不調によるパフォーマンスの低下..... **3割弱**

不調であっても働かざるを得ないのが“宮仕え”のつらいところ。

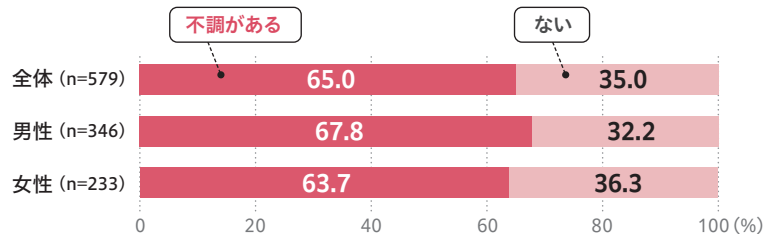
体調が整っているときを100%とした場合、直近の仕事のパフォーマンスについて評価してもらったところ、男性の平均は71.2%、女性は72.4%で、不調によるパフォーマンスの低下は男女とも3割弱となっている。

何らかの不調により、「今の自分は100%のパフォーマンスを発

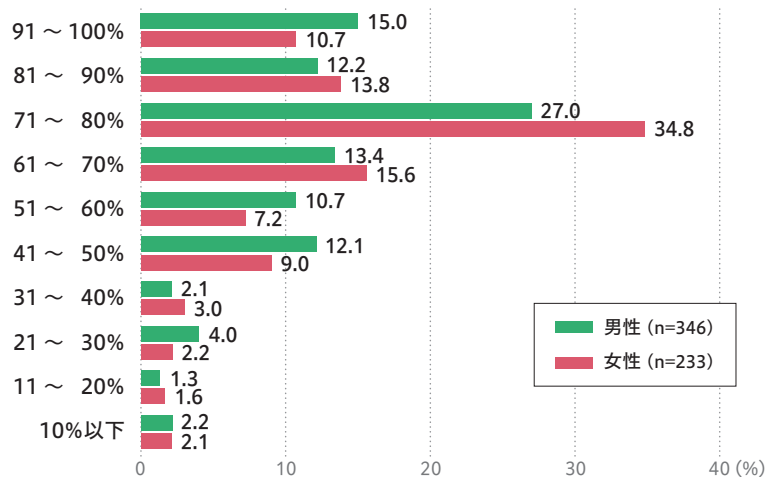
直近の仕事のパフォーマンスは

男性 **71.2%** 女性 **72.4%**

職場の人間関係において影響を与えている不調の有無



体調が整っているときを100%とした場合の直近の仕事のパフォーマンス



揮できていない」と評価している状態は、むしろ自己を客観視しているという意味で健全といえない。会社としては、従業員のパフォーマンスを最大限発揮できる職場づくりやきめの細かい対応が求められる。

それにしても、ことしの猛暑で体調を崩した人は多かったのではない。今後は異常気象等の環境変化に応じた働き方の検討も必要になってくるかもしれない。

(インテリジェンスバリューコーポレーション株式会社 岩村克俊) ●